

修学旅行

in 松江



10月11日(日)から13日(火)、大口中学校3年生213人が修学旅行で「島根県松江市」を訪れました。

例年の行き先は東京方面ですが、新型コロナウイルス感染症対策として姉妹都市である「島根県松江市」に変更となりました。

これは、「堀尾吉晴」という郷土の偉人を知る契機となり、将来に向けた両市町のさらなる交流のきっかけになればと松江市に決まりました。また、今年が姉妹都市提携5周年であることから、生徒の皆さんを、大口町の親善大使として派遣することとしました。

松江市長をはじめ、関係者の方々



は、宿泊先の確保や感染リスクの低減、生徒さんへの思い出づくりに尽力してください。安心して旅行ができるよう準備を進めてくださいました。

親善大使任命式

出発に先立ち、10月6日(火)に親善大使任命式が大口町役場でおこなわれ、鈴木町長は「50年前から松江市と交流してく

れた人たちがいるおかげで君たちは招いてもらえる。それを忘れな



い」とあいさつをし、松江市に植樹する「おおぐち観鋭桜」を生徒に託しました。生徒代表は「町代表の意識を持ち、さまざまなことを学んできます」と抱負を述べました。

1日目

午前7時に保護者から見送りをされ大口町を出発。

長時間のバス移動でしたが、先生方が制作したレクリエーションやDVD、音楽を聴いたりしながら道中を楽しみ、生徒からは「あっといいう間だった」という声がありました。

生徒の声 有満想 一郎さん

待ちに待った修学旅行ということもあり、皆の気分はとても高揚していました。7時間という長時間の移動でしたが、学級の仲間とバスレクをおこない、普段関わりが少なかった友だちと交流ができ、絆がより一層深まりました。

午後2時30分頃に鳥取県境港市にある「水木しげるロード」に到着。妖怪スタンプラリーや妖怪の像と写真を撮ったり、食べ歩きやお土産を購入し、思い思いに楽しみました。

生徒の声 池田ゆいさん

水木しげるロードには、目玉の

形をした街灯や、妖怪のモニュメントが道沿いにあり、不思議な感覚を味わうことができました。印象に残っているのは、目玉の親父の風船を買ったために走ったことです。帰ってきた今でも、その風船を見ると、あときの楽しかった思い出がよみがえります。

その後、ベタ踏み坂(鳥取県境港市と松江市をつなぐ「江島大橋」を通り、松江市の宍道湖に到着。あいにくの天気で夕日は見られませんが、友達と楽しく会話をしながら湖畔を散歩し、各ホテルへと向かいました。



▲水木しげるの像と写真

生徒の声 神尾潤乃さん

宍道湖周辺の散歩では、天候に

恵まれず、夕日の穴道湖を眺めることはできませんでしたが、友だちとゆったり散歩しながら話せたことはとてもよい経験となりました。また、穴道湖で撮影した学級写真もよき思い出です。

ホテルは、新型コロナウイルス感染症対策として、4つのホテルに分かれ、教員を含む全員が、個室か2人部屋に宿泊をしました。

また、食事中は会話を控えるなどの対策がとられました。

生徒の声 菊元日菜乃さん

ホテルでは、とても豪華な夕食の後、それぞれの部屋での時間を楽しみました。同じ部屋の友だちと、修学旅行ならではの女子トークをしたり、同じテレビ番組を見たりして楽しむことができました。

2日目

各グループに分かれて松江城散策や堀川遊覧船、物産館、体験活動として勾玉作りや焼き物作り、アクセサリー作り、カヌー、くわいど 潜戸観光遊覧船を体験しました。

生徒の声 奥村春樹さん

私は、カヌー体験を行いました。

穴道湖の美しい湖面を見ながら、

一生懸命カヌーを漕ぎました。大口町では体験できない貴重な時間を楽しむことができ、とても思い出に残っています。

生徒の声 野口龍人さん

堀川遊覧船では、松江の歴史を感じる城下町の風景と、豊かな自然を楽しむことができました。中でも、船頭さんがやさしい口調で城下町について説明してくださったことがとても印象に残っています。

生徒の声 藤田怜奈さん

私は、焼き物づくり体験をおこないました。「焼き物の先生」といえば、基平を着た頑固なおじいさんを想像していましたが、実際はとても気さくな先生で、初心者の私たちにも分かりやすく教えてくださいました。大切に使うべきだと思える焼き物ができました。

松江城散策では、「まつえ時代案内人」に城郭を攻める目線、守る目線で説明を受け、※しんがしん 城普請の名人といわれた堀尾吉晴公が築城した国宝松江城について学びました。また、松江城天守に登り、最上階から見える松江の街並みや穴道湖を眺めました。

※城普請 城の土木工事のこと



生徒の声 森藤陽樹さん

一番感動したのは天守閣からの景色です。360度広がる景色は、息をのむ素晴らしさでした。また、武将隊の説明がおもしろく、お城に興味が多かった私でも、楽しむことができました。

体験活動の潜戸観光遊覧船では、神話が伝わる海の大洞窟「新潜戸(かみくつ)」「かみくつ 書のかわらのある「旧潜戸(ほろくつ)」をめぐり、日本海の潮風を感じながら、歴史や文化を学び、神秘的な光景に感動しました。

生徒の声 川瀬 梓さん

観光遊覧船に乗り、港内から日本海へと近づくとつれて、波の激しさを強く感じるようになり、

クワクワする気持ちもどんどん大きくなりました。神秘的な洞窟も見学させていただき、貴重な経験をすることができました。

松江フォーゲルパークでは、「修学旅行記念植樹式」が執りおこなわれました。

生徒代表より「大口町固有の『おおぐち観鋭桜』を松江の地に植えることは、大口町と松江市の交流の証のひとつになります。数年後にまたこの地に仲間と訪れ、桜の成長を確認したい」とあいさつがありました。

生徒代表2名と鈴木町長、齋慶校長で2本の「おおぐち観鋭桜」を松江フォーゲルパークの敷地に植樹し



ました。その傍らに、大口中学校第13期生が修学旅行で植樹したことを記した石碑を設置しました。

来賓としてご出席いただいた、松江市能海副市長から「この『観鋭桜』が大きく成長し、美しい花を咲かせこの地の魅力となるでしょう。桜の成長とともに両市町の発展と友好の花がたくさん咲くことを願います」とのお言葉をいただきました。

生徒の声 加藤梨紗子さん

私は植樹式を通し、大口町と松江市の絆を改めて感じることができました。将来、友だちと集まって、『おおぐち観鋭桜』の成長を見に行くことが、これからの楽しみになりました。

その後は、松江フォーゲルパーク内の、色取り取りに飾られた花と写真を撮ったり、フクロウや鳥に餌を



あげるなどして楽しみました。

生徒の声 木村将都さん

フォーゲルパークは植物やさまざまな鳥が飼育されている施設です。鳥のエサやり体験は、かわいい鳥やきれいな鳥たちとたくさん触れ合うことができました。このような体験は、なかなかできることではないと思います。オススメスポットの1つです！

夜は、ホテルで、松江市の松浦市長と「松江の吉田くん」の出席により、松江市ツーリズムアンバサダー任命式がおこなわれました。

この制度は、今回の修学旅行を契機に、松江市姉妹都市の児童生徒を



漫才など披露し、会場は大いに盛り上がっていました。

生徒の声 吉田星輝さん

アンバサダーとしての使命を全うできるよう、心がけたいと思います。学年全員での会食では、有志発表やレクリエーションなど、学年全員で時間を共有し、とても楽しい時間になりました。

最終日

最終日は出雲へ。

古代出雲歴史博物館を訪れ、鳥根県や出雲大社の歴史・文化、出雲神話など展示物を見学しました。

生徒の声 田場愛梨さん

印象に残っている展示品は、平安時代の出雲大社本殿10分の1模

対象とした「観光大使」を設けられたもので、松浦市長は「松江の思い出を家族や地域の方、身近な人などいろいろな人に語ってほしい。松江はみなさんの先祖がつくったまちです。またぜひ来てください」とお話しされ、大口中学校第13期生が松江市ツーリズムアンバサダー第1号として任命されました。

生徒代表は「貴重な経験をさせてもらった皆さんにご恩をお返しするため、全員が松江市ツーリズムアンバサダーとしての責任をもって行動していきたい」と決意を語りました。

その後、夕食をしながら生徒有志による発表会がおこなわれ、バトントアリングやダンス、歌、ピアノ演奏、





型と358本の銅剣です。10分の1の模型でも、とても大きくて驚きました。また、壁一面の銅剣はとても迫力がありました。皆さんもぜひ、見てみてください。

出雲大社では、観光ガイドの方に詳しい説明を受けながら境内を回りました。

出雲では、10月を「神在月」と呼び、全国の八百万の神々が出雲大社に集うという逸話があり、生徒たちは丁寧にお詣りをしました。

生徒の声 前田菜希さん

普通の神社と参拝方法の違いを(2礼4拍手1礼)をガイドさんに教えていただきました。また、し

め縄や国旗の大きさに非常に驚きました。本当に大きいです！

帰路のバス車内では、「想像以上に松江は楽しかった」「数年後にまたみんなで松江に行きたい」など思い出に浸る声が聞こえました。

また、新型コロナウイルス感染症対策としての臨時休業もあり、新しいクラスで交流ができていなかった友だちと仲良くなるきっかけとなり、「たくさんしゃべれて楽しかった。仲良くしてくれてありがとう」と話していました。生徒たちにとって一生の思い出となった修学旅行であったと感じました。

生徒の声 永井煌斗さん

帰りのバスは、皆とても疲れていて、話す気力もあまり残っていませんでした。行きのバスはウキウキでいっぱいでしたが、帰りのバスは『早く大口町に帰りたい！』の一心でした。帰ってからは、たくさんのお土産を家族に渡したり、たくさんのおいしい話に花を咲かせました。



松江市
松浦市長

大口町との
姉妹都市提携
5周年の節目

の年に、修学旅行に来てくださりありがとうございました。

このたびは松江フォーゲルパークにおいて、おおぐち観鋭桜を寄贈いただいたこと、心よりお礼申し上げます。

また、大口中学校3年生の皆さまを松江市ツーリズムアンバサダーに任命させていただきました。今後、松江市の歴史文化や豊かな自然等の魅力を国内に広く発信し、知名度の向上や広く理解促進を図っていただきたいと思えます。

頂きました桜の成長とともに、両市町の発展の花が数多く開くことを祈念するとともに、また桜が大きくなり花咲く頃に再度、見て頂けることを願っています。



大口町
鈴木町長

10月11日
(日)午後10時過
ぎ、穴道湖畔

を散歩しました。穴道湖に面したホテルの部屋に子どもたちの姿を見た時、大口中学校の生徒の皆さんが、松江市に修学旅行できたのだと実感しました。

多くの方にとって、修学旅行は一生の思い出になるはずで、生徒の皆さんが大人になった時、「修学旅行で松江に行ったよね。松江開府の祖は、大口生まれの堀尾吉晴公、凄いよね」「松江にもう一度、皆で行ってみようか」といった共通の話題に花が咲く、そんなことをずっと夢みていましたが、その第一歩となる光景でした。

社本鋭郎初代町長は、桜並木でまちの皆さんの心が一つになることを願って植樹を手掛けたとのこと。桜が育って並木となり、まちの人々が花見をする姿を見た時に、今の私のような気持ちになられたのではないかと思います。胸が高鳴り熱くなりました。

この光景が続けばと願いつつ、しばらくその場にたたずみました。

この修学旅行の実現にご尽力された先生方、松江市および関係者の皆様にご感謝するばかりです。